

馬術部施設老朽化の現状について

北海道大学馬術部現役

馬術部 OBOG の皆様、日頃から馬術部の活動にご指導、ご支援賜りましてありがとうございます。2024 年には、後援会から遮光ネットや扇風機といった猛暑対策、馬場砂の購入費などに援助をいただきました。ありがとうございます。

覆馬場建設について(2024 年新年会)

昨年の東京 OB 会新年会では、安村前主将から覆馬場建設についての提言がありました。進む温暖化によって雪の融解、凍結が繰り返されるようになり、冬季の馬場状態が劣悪になるためです。よって部としては、冬の馬の健康のために覆馬場が必要であるとの考えです。しかし第一に、北 18 条から 23 条に移転してから 26 年が経過し、既存の施設の老朽化が進んでいます。よって部内では、まず今ある施設を修繕することが優先だろうとの結論となりました。

北 23 条馬場施設の現状

竣工から 26 年が経過し、全体的な老朽化が進んでいます。致命的な故障はまだ発生していませんが、発生している問題のなかから現役部員の技術では修繕が難しいものをいくつか選んでお伝えします。

(1)馬繋場水道

・現状

厩舎南側に 13 頭分の繋ぎ場があり、6 箇所水道があるが、いずれも使用できる状態にない。

馬を洗えるのは厩舎東側にある 3 頭分の繋ぎ場(洗い場)のみ。部室内から延長したホース(上水道、お湯使用可)、部室裏からのホース(上水道)、井戸水が利用できる。

・問題

夏場の練習では馬の手入れ待ちで行列ができてしまい、練習終了後すぐに馬を厩舎にもどせない。待ち時間により、馬のストレス、授業に遅刻するといった影響が出ている。

・希望

水道管、蛇口の修繕。上水道との接続。

破損した水道



(2)厩舎内水道

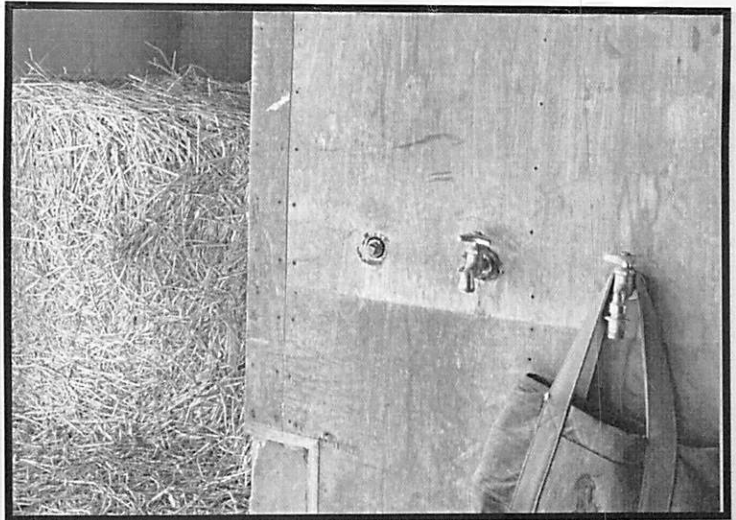
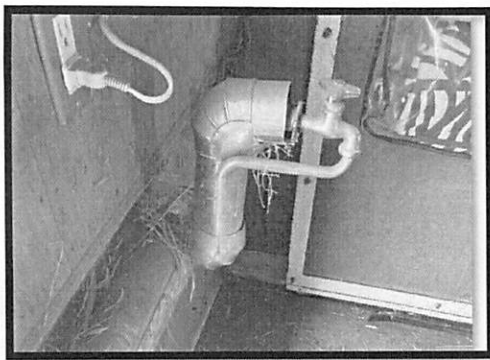
・現状

厩舎内に3か所蛇口があるが使用不可。水桶への給水は、部室内から延長したホースや部室トイレの手洗い場からポリタンクに入れ往復するなどしている。

ボイラーも設置されているが、使用できない状態。

・希望

水道、ボイラーの復旧。



蛇口はあるがいずれも使えない

(3)馬房出入口

・現状

馬栓棒(金属製)と格子戸で馬房を閉めている。

馬栓棒は日々の使用により摩耗し短くなってきている。扉幅に対して棒の長さが足りないため、次ページの写真のように蹄鉄を打ち付けて長さ不足を補っている。予備もないため、塩ビ管を切断し馬栓棒としている馬房もある。

・問題

馬栓棒の長さ不足を補う蹄鉄だが、衝撃で落下して釘が馬房内に紛れてしまう事故が発生することがある。また本来の長さであれば機能する棒の落下防止機構が機能せず、馬によっては馬栓棒を外すことができってしまう。

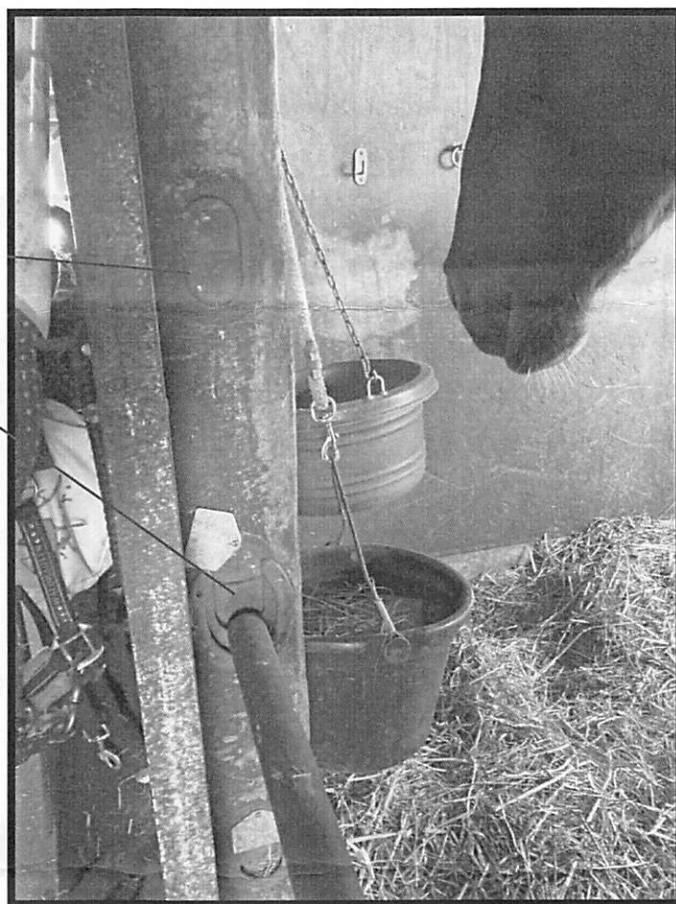
塩ビ管は馬の力に対する強度に不安がある。軽い馬によっては外すことができる。

・希望

予備を含めた馬栓棒の整備。

予備はない状態

蹄鉄で長さ不足を補っている。
馬が持ち上げれば外せる状態。



(4)裏戸

・現状

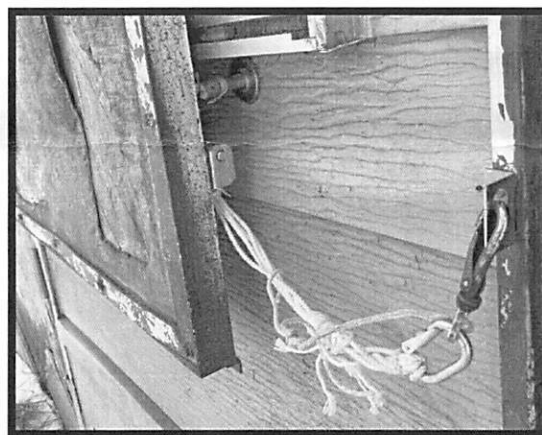
固定器具が破損しているため紐や金属チェーンなどで結んでいる。

・問題

完全に閉めきれないこと、強度の問題により突風が吹いた際には紐や金具が破断して突然閉まることがある。修理には溶接が必要。

希望

金具により固定できる状態に復旧する。



予算や工事の実施について

以上にあげたように老朽化が現実となっている厩舎や部室はそもそも大学の施設であるため、まずは大学の学生支援課に相談しながら協力を仰ぐ予定です。その中で実際に手を加える部分を決定し、見積もり、業者への発注と動いていきたいところです。

OB 会、後援会の皆様へのお願い

現在大学は資金面で困難な状況にあります。その中でどれほど大学の協力を得られるのかは不透明なところがあります。大学からの援助では不足してしまう場合は OB の皆様方にもご協力願いたいと思っております。

最後に：現役が抱える問題

・壊れていて当たり前という感覚

以上に挙げたような問題は現役が入部する以前からあるものです。部に在籍中に、使えたものが使えなくなるようなことがあれば修理のために動くことができますが、入部当初から使えないものは、それが当たり前となり放置されてしまいます。

放置していても部の運営に致命的な影響を与えない故障は、必要なものではないから修理しなくてもよい、という考えもあります。しかしそれでは負債が増えていくだけです。可能な限り修繕を行いたいと考えております。

・4年で部員が入れ替わるということ

たった4年で引退を迎えるため、施設などについて引き継がれていかないという問題もあります。馬に乗るとのこと、馬を継いでいくことが部活動の中心となるため、施設について考える余裕を持つ部員は多くありません。

現役部員は短期的な視点でしか物事を見られないため、長期的な施設の管理は行き届かないのが現状です。OB のみなさまには長期的な視点からご指導、助言をいただきたいと思っております。

すこしでも良い状態で後輩につないでいけるよう現役一同意識をそろえて維持管理に努めていきたいと思っております。また、現役からの情報発信などご意見等ございましたらご連絡お願いいたします。

北海道大学馬術部

hokudai.equestrian@gmail.com